

助動詞む・むず・じ

む・むず…(婉曲・意志・推量・適當・假定・

勧誘) ↓未然形に接続

じ…(打消推量・打消意志) ↓未然形に接続

じ	むず	む
○	○	○
○	○	○
じ	むず (んず)	(ん)む
じ	むずる (んずる)	(ん)む
じ	むずれ (んずれ)	め
○	○	○
打消意志	打消推量	婉曲・意志 推量・適當 假定・勧誘

◎む・むず

① 婉曲…(ノヨウナ)

② 意志…(ヨウ・タイ・スルツモリダ)

③ 推量…(ダロウ・ソウダ)

④ 適當…(ガヨイ・シマセンカ)

⑤ 假定…(ナラバ・テモ・タラ)

⑥ 勧誘…(ガヨイ・シマセンカ)

◎じ

① 打消推量…(ナイダロウ・マイ)

② 打消意志…(マイ・ナイツモリダ)

ポイント

- ① 文中の「む」（連体形）は婉曲か仮定（ただし文中でも「む」の下に「と」「とて」や、文末強調の終助詞「ぞ」「かし」などがある場合は除く）

—む—

- ② 「む」＋体言 ↓ 婉曲（たまに仮定）

・ 人に憎まれ **む** 婉曲 ↑ 体言 ことこそあるべけれ

（|| 人に憎まれるようなことがあるに違いない）

- ③ 「と」の上の「む」 ↓ まず意志から入る ↓ 意志でなければ推量（たまに勧誘）

・ われも行か **む** 意志 ↑ と思ひて（|| 私も行こうと思って）

- ④ 一人称（私）を受ける「む」 ↓ 意志

・ **われ** 御子に代りて海に入りな **む** 意志 ↓
（|| 私が御子に代わって海に入ろう）

- ⑤ 二人称（あなた）を受ける「む」 ↓ 適当・勧誘

- ⑥ 三人称（私・あなた以外）を受ける「む」 ↓ 推量

・ **雪降ら** **む** 推量 ↓（|| 雪が降るだろう）

⑦「む」＋助詞→仮定

むは
むに
むも
むこそ

ときたらまず仮定から入る
(仮定でなければ婉曲)

・ありのままに言は^假むはをこがまし

(||ありのままに言ったならば、それはばかげている)

・よくつかうまつりたら^むにしたがひて

(||うまく詠み申し上げたならば、それにしたがって)

・父宮の尋ねいで給へら^むも

(||父宮がお尋ねなされたならば)

・仏になりたら^むこそは

(||仏になったならば)

プラス

「くは」ときたら仮定↓形容詞型活用の連用形
「く」＋係助詞「は」(助動詞「べし」「まじ」も同じ)

・切りぬべき人なくは、たべ、切らん

(||切るはずの人がいないならば、ください。私が切りましょう)

・恋しくは来ても見よかし

(||恋しいならば来てあいなさいよ)

⑧ 適当・勧誘の場合は「こそーめ」の形をとることが多い
↓入試では適当・勧誘はセットで二人称(あなた)を受けける

勧誘

・あるがなかによからむをこそは選りて思ひたまは(め)
(||数ある中から特によいようなものを選んでお思いなさるのがよいだろう)

※「じ」は「む」を打ち消したものと覚えておこう

《ハイレベル》

「む」本来に可能の意味はないけど「む」の下に疑問または反語を表す語がある、または「なむ・てむ」と「む」の上に強意の助動詞があると、可能推量(デキルダロウ)となる時がある

強可推反

・よみて(て)む(む)やは(や)は

(||詠むことができるだろうかいやできない)

強可推反

・今の翁まさにし(な)む(む)や(や)

(||今の老人がまさにすることができるだろうかいやできない)